

# 中国における對外漢語教育の現状と課題

「對外漢語教育」、すなわち中国で留学生を対象として行われている中国語教育は現在どのような状況にあるのか、またどのような問題点を抱えているのか、さらに日本人学生が中国語を学ぶ際の弱点とは？  
長年、對外漢語教育に携わってきた中国人教員が忌憚なく語り合う。

王硯農

（元愛知大学  
現代中国学部教授）

× 崔永華

（北京語言大学教授・  
中国對外漢語教学学会副会長）

× 鄭天剛

（南開大学・  
漢語言文化学院教授）

司会

劉柏林

（愛知大学  
現代中国学部教授）

劉 お忙しいなか、本日の座談会にお越しくございましたことに心から感謝申し上げます。

王硯農先生は、對外漢語教育に携わって数十年にもなられ、豊富な経験がおありになります。私は王硯農先生と数年お仕事を一緒にさせていただきましたが、王先生はこの方面についてよくご存じです。

崔永華先生は、かつてイギリスで二年間教鞭を取られたこともありまし、中国にやってくる留学生の漢語教育を長年

にわたり担当され、中国對外漢語教学学会副会長や国家漢語水平考試委員会委員も歴任されています。

鄭天剛先生は、南開大学漢語語言文化学院の教授でいらつしやいまして、愛知大学現代中国学部が南開大学で実施している語学研修プログラム「中国現地プログラム」の教学責任者です。私はこのプログラムの実施委員長をしておりますが、仕事の面では長年にわたり鄭先生にご協力をいただいております。しかし、これまで今回のように落ち着いて、共に

関心を持っている對外漢語教育の状況について系統立てて話し合う機会はありませんでした。ですから、本日は對外漢語教育のエキスパートである皆様をお招きして、このような話し合いの場をもてたことを、大変光栄に思っております。

## 對外漢語教育の過去および現状

劉 ご存じのように、中国経済の著しい発展および中国国力の増強につれて、近年、世界で中国語ブームが巻き起こっています。個人的には中国語の実用的価値

は絶え間なく上昇していると思っ  
ています。中国語をマスターする  
ということは、つまり世界の五分  
の一の人口を占める一三億の中  
国人と友好的に交流する道具を  
身に付けるということです。です  
から、中国語ブームが全世界に  
巻き起こった背景には、間違い  
なく中国の経済力を中心とする  
総合的な国力の増強がありま  
す。メディアの報道によると、フ  
ランスでは、英語、日本語、ス  
페인語の教育面での伸び率は二  
%から四%であるのに対し、中  
国語全体の伸び率は三八%で  
す。オーストラリアでは、中国  
語はすでにイタリア語を抜いて  
第一外国語になっています。ア  
メリカの国勢調査局の報告によ  
ると、中国語はアメリカではス  
페인語について二番目の外国語  
となつていくと見られています。  
目先を日本に向けてみますと、  
日本では七五〇近くの高校が第  
二外国語を設けていますが、そ  
の中国語が第一位です。中国語  
は英語に次ぐ二番目の外国語と  
なつてい

近年、中国は日本の最大の貿易相手国

となつてい

ますので、これと対応して、  
現在日本では二百万人が中国語  
を勉強しています。私が二年前  
に初めて日本で教鞭を取ったこ  
ろ、中国語科目を開設している  
大学はそれほど多くはなく、数  
えるほどでした。現在、日本の  
ほとんどの大学のカリキュラム  
に中国語科目が設けられていま  
す。この変化は非常に大きい  
と思います。私が教鞭を取って  
いる愛知大学は、一〇年前に中  
国語ブームの先駆けとして、中  
国という文字を冠した学部、「現  
代中国学部」を設立しました。  
毎年およそ二百名ほどの学生  
を受け入れています。これらの  
学生は入学後すぐに中国語学  
習を始めますが、このように  
大規模な中国語の専門教育を  
行っているところは、中国以外  
の場所ではまれだと思います。

二〇〇五年七月二〇日の『人民日報』  
海外版によると、海外の百の国  
と地域において、二三〇〇校  
余りの大学で中国語が教えら  
れており、中国語を勉強してい  
る人は三千万人にも達してい  
るそうです。しかし、最近の『  
人民日報』海外版

によると、二〇〇六年三月の統計では、  
世界で中国語を勉強している人は一億人  
にも達しているとのことです（一同笑）。  
私はこの数字には少し疑問を持ってい  
ます。しかしながら、これは、中国語を学  
ぶ人が増えているという趨勢を表してい  
ます。昨年（二〇〇五年）、中国語を勉  
強するために中国に来た外国人留学生は  
およそ八万四千人だそうです。

崔 新聞で見ましたが、最近は一万人  
だそうです。

劉 この数から考えても、中国語学習  
ブームはすでに歴史の流れの一部になっ  
ています。ですから、私たちの前に置か  
れている課題は、どのようにこの流れに  
応えたらよいかということです。中国は  
現在、国際中国語教師ボランティア計画  
を実施中です。中国政府は他国政府との  
合意に基づき、毎年、その国に一定人数  
の中国語ボランティアを派遣し、その国  
の中国語教育を支援することになってい  
ます。それと同時に、全世界百か所に孔  
子学院を設立するという計画も昨年（二  
〇〇五年）から始動しました。現在、日



崔永華 [Cui Yonghua] .....

本では四つの大学が孔子学院を設立し、中国語教育と教員養成を推し進めています。愛知大学は二〇〇六年二月二十四日に中国政府と孔子学院開設の提携を結び、中華人民共和国駐日特命全權大使王毅氏がその調印式に出席されました。

本日皆様をお招きしたのは、まず、中国国内の対外漢語教育の現状と私たち各自の大学の対外漢語教育の状況について大いに語りあい、次にそれぞれが長年の対外漢語教育の中で体得したことについてお話しただきたいと思ったからで

す。また、日本語母語話者が中国語学習の過程において直面する問題とそれをどのように解決するか、さらに今後の中国の対外漢語教育の展望といったようなテーマについても話し合いたいと思います。

では、まず崔先生に中国国内の対外漢語教育の現状をお話しただきたいと思っています。

崔 現在、対外漢語教育界は非常に大きな転換期に直面していると思います。二〇〇五年七月の世界漢語大会（世界中国語大会）以降、中国の対外漢語教育の情勢は大いに変わりました。以前は私たちが対外漢語教育について議論していたのですが、現在は国家が中国語の国際普及を提唱しているのです。この変化は主にどのようなものかといいますと、以前は、中国国内の大学が外国人成人を対象に実施する中国語教育が主に注目されていたのですが、現在はその重点が国外の中国語教育へと移っています。これまで「請進來」（招きいれる）、今後は主に「走出去」（出かけていく）となっています

す。

現在、世界では三千万人が中国語を勉強しています。この三千万人にはいろいろな人が含まれています。海外華人もその中に含まれ、五千万人いると言われていています。国外の中国語学習者のうち海外華人の子女の占める割合は非常に高いです。中国語普及の目標は、二〇一〇年までに海外で中国語を勉強する人を倍増させ、一億人を達成することです。このような情勢は中国国内の漢語教育界に非常に大きな影響を与えていると思います。対外漢語教育界は觀念上の大きな転換を強いられています。なぜなら、これまで私たちは主に大学においてこのような仕事を行ってきましたので、私たちの研究対象、研究内容も主に大学での対外漢語教育にありました。しかし、現在進められているいくつかの企画は、教材や教員養成の計画も含め、主に国外の小中学生や一般人に向けたもので、この教育の対象とする人数は現在中国国内で中国語を勉強している学生よりかなり多いですし、また国外の大学で中国語を勉強している

学生よりもはるかに多いです。例えば、アメリカでは二五〇〇校近くの中学や高校で中国語の科目を開設する予定です。イギリスでは、以前に見た数字は二五〇か所とのことでしたが、先日、イギリスから来た友人に聞いたところでは五百の中学や高校が中国語の科目を開設する予定だそうです。

そこで私たちが直面している一番大きな問題は教員の不足です。そのため国は教員養成に力を注いでいます。ポランテアの育成を含め、従来の対外漢語教育の学部や修士課程における対外漢語専攻を強化し、対外漢語専攻の科目を調整し、養成方針、方法の改革を行い、迅速に大勢の中国語教師の養成を行おうとしています。例えば、今ちょうど対外漢語専門の修士課程を計画しており、現在すべて三年間となっている修士課程を、将来的に二年もしくは二年半に短縮し、教授法を主に勉強させるというのもその一例です。

教員不足以外に、もう一つの大きな問題が教材です。現在、多くの教材があり

ますが、そのほとんどが成人学習用に作られたもので、小・中学生や高校生、さらには異なる国情に合わせた教材となると、その数は全然足りません。これらを対象とする教育は今後の重点であり、趨勢です。また教材のマルチメディア化、インターネット化も今後の主要な課題となります。

私の所感から言えば、現在、私たち対外漢語教育に携わって来た者は、確かに大きな転換期に直面しています。私たちが熟知しているのは大学や成人の漢語教育であり、今後のより広範囲な漢語教育については、実のところ未知の世界なのです。中国語の国際的普及という目標を実現するため、運用方法を切り替えて、より多くの人が参画できるようにし、市場に合った運用方法を採用し、この事業を少しでも早く行っていく必要があります。ここ数年で比較的大きな変化があるかもしれません。しかし、中国語の国際的普及事業はまだ始まったばかりで、皆が模索をしています。この活動には五年、一〇年、いや五〇年、またはさらに

長い時間がかかるかもしれません。今まで着手し始めたばかりなのです。これらが対外漢語教育界の抱えている最大の問題だと思えます。

劉 そうですね。私たちが今後解決しなければならぬ大きな課題ですね。

崔 私がいる大学——北京語言大学、その前身である北京語言学院の状況は皆さん比較的好感じだと思います。土台は清華、北京大学の建国初期の漢語教育にあり、一九六二年に北京語言学院が設立されました。校名は数回変更され、語言学院から語言文化大学、今は語言大学となっています。設立以来ずっと国内で最大規模の対外漢語教育機関です。現在、語言大学の教育組織は三つに分けられ、三つの学院があります。一つは漢語学院で主に外国人留学生の学部教育を担当しています。一年次生から四年次生まで、およそ一三〇〇人の学生が在籍しています。二つ目の学院は漢語進修学院で、学生はここで大体一年から二年、人によっては三年間勉強します。ここ数年の学生数は一二〇〇人ほどです。最後に漢語速

成学院ですが、ここの学生の学習期間はみな半年以内で、一年でおよそ二千人が勉強をしに来ます。普段は同一時期に九百名ほどが在籍しています。全校を合わせると毎年およそ四千人の外国人留學生が在籍しているのですが、ここ数年ちよつとした変化が起こつています。日本の學生が少なくなつてきています。

劉 全体に占める割合が減少しているということですか。

崔 割合も減少していますし、総人数も減少しています。今では韓国人學生が日本人學生より多くなつています。

王 ここ数年、韓国人留學生の増加は急速です。

崔 また欧米の學生や東南アジアの學生が増えてきています。もともと日本人學生が一番多かつたのですが。

鄭 この状況はどの学校でも大体同じです。

崔 一般的な現象で、留學生の規模が大きい学校では大体こんな感じですが。規模が小さい学校、例えば東北地方の学校な

どはほとんどが韓国人留學生で占められています。これがここ数年の留學生の出身地の変化です。私の大学の留學生数はここ数年比較的落ち着いています。なぜかという点、教室や宿舎に限りがあるからです。拡大をしたいと思つても制限されてしまうのです。

鄭 ハードによつて制約されてしまうのですね。

崔 また教師の数による制約もあります。現在、教師の負担はすでにかなり重くなつていきますし、大学からのプレッシャーも結構きつい。さらにはさまざまなハード面の整備も追いついていけません。大学は今、留學生の規模を拡大しようと思つていますが、それを受け入れるだけのキャパシティがありません。ですから、学校側もなんとかこの問題を解決したいと思つています。その他、學生の教育や生活環境に対する要求が高くなつてきていますので、学校は絶えず建物を新築したり、宿舎を改築したり、設備を更新したりしています。毎年少しずつ留學生数は伸びていますが、ここ数年の変

化はそれほど大きいものではありません。ただ、學生が多様化しています。

その他の変化ですが、開設する科目が以前よりも多くなつています。主に専門的な科目が新設されています。以前は主に言語科目に重点を置いていましたが、現在は學生が実用的な科目を望んでいるのです。例えば、最も人気があるのが対外貿易関連の科目です。

鄭 この大学も同じですね。あと、経済貿易関連もあります。

崔 「経済貿易」と言つたり、「対外貿易」と言つたり、多くの学校はこれらのコースを開設しています。

劉 私のところでは、「商務」(ビジネス)と言つています。

崔 二種類の方法がありまして、一つはこれらの科目を増やす方法、もう一つはそういったコースを設ける方法です。例えば、語言大学の漢語言本科専攻には漢語、漢語言語文化、經濟貿易のコースがあります。本来メディアコースもやる予定だったので(一同笑)、學生の登録数が少なく、やりませんでした。何に

しろ、学生が学ぼうとするものがさらに実用的になってきました。これらも学生の多様化と密接な関係があります。学生の学習目標も変わりました。以前は興味から学ぼうとする人が多く、もしくはただ一つの外国語を学びたいからといったものでしたが、現在は多くの人が中国語を生きたための手段にしたいと思っています。なぜ中国語を学ぶのかというと、将来の就職のため、生活していくためなのです。

鄭 韓国人や日本人は、この実用的な目的がより顕著ですね。

崔 今はアメリカ人も同じだという調査もあります。それによるとアメリカの子供たちになぜ中国語を勉強するかを聞いたところ、答えは「中国語を学んだら、将来きつと良い仕事に就けるから」というものでした。

劉 そうですか。みな結構現実的ですね。崔 多くの人がそう考えています。アメリカ大学理事会 (The College Board) が二〇〇三年に実施した調査結果があります。アメリカには A P プログラム

(Advanced Placement Program) というもの

があり、アメリカ全土の中学・高校に對して、イタリヤ語、ロシア語、日本語、中国語のうちどれを A P プログラムの中に取り入れたいかという質問をしたところ、その結果はそのプログラム主催者を驚かせました。プログラム主任トム・マッツ (Tom Marts) は後にメディアにこう語っています。「五〇校がロシア語を、一七五校が日本語を、二四〇校がイタリヤ語を選びましたが、それに対し中国語を選択した学校は二四〇校にも上り、これは他の言語の少なくとも十倍です。私たちは、アメリカの中学・高校が中国語開設にこのように不思議なほど大きな興味を持っているとは全く知りませんでした」。この結果は校長の意向を反映したのですが、学生も同じように考えています。中国語を学べば将来よい仕事が見つかると思っているのです。劉 聞くところによりますと、ある外国企業は中国語ができるか否かと給与レベルを関連づけているそうです。鄭 韓国企業は間違いなくそうです。天

津には韓国企業がたくさんありますが、昇給昇格などに中国語能力が直接関係します。ですから H S K (漢語レベル試験) で試験監督をすると、九〇%、いやほとんどがみな韓国人です。受験者リストを見ても、みな韓国人の名前です。そのうえ、受験者にはまだ本場に小さい子供や小学生から年配の会社員までいます。また、ある分野の責任者も H S K に参加しています。これから考えても、彼らの功利的な目的意識は非常に強いと言えます。

劉 そのため、中国語教育は徐々に実用的になってきています。

北京語言大学で中国語を学ぶ日本人の占める割合は徐々に低くなり、人数も減少しているということですが、原因は何でしょうか。

崔 原因の一つは、中国語を学ぶ人の分母が大きくなったということです。例えば、私が北京語言大学に着任した一九八一年ごろは、およそ三百人弱の教師がおり、学生もほぼ千人弱でした。当時は他の国との交流もあまりありませんでした。

た。九〇年代中ごろになると、日本人学生はやはり比較的多かったのですが、当時の在校生はおよそ二千人で、現在は四千人強いです。これは私が考えていることですが、いかなる国のどんな人材市場にもいずれ飽和状態が訪れると思います。伸び続けるということはありえません。必ず均衡点が訪れます。例えば日本について言えば、中国語のできる人は二〇万人、多くとも三〇万人ぐらいでしょう。五百万にも、一千万にも達することはありません。そう考えてみると、日本人の間での中国語学習はかなり人気が高いと思います。よその国ではまだブームになり始めたばかりです。

鄭 日本では、早くからブームが起っていました。

崔 だいぶ前には、日本の中国語学習者は百万人と言われていました。現在、日本の中国語学習者数については三つのデータがあります。一〇〇万、一二五万、二〇〇万です。しかし、中国に中国語を勉強しに来る学生の数は今一種の均衡状態にあるのではないかと思います。

将来的には韓国もそうなると思います。ある時期が来るとそれ以上増えません。

それを維持すればいいのです。なぜなら、さらに増えてしまうと一種の製品過剰になってしまい、そうすると一部の人はあきらめてしまいます。ここには市場および経済の原理が関与しています。ですから私の大学の日本人学生はここ数年、特にここ二、三年は減少しています。おそらく日本から中国に中国語を学びに来る総人数も減少しているでしょう。二つ目の原因は、日本人学生が中国全土に分散したからでしょう。以前は数校しか対外漢語教育を実施していませんでしたから。

王 そうですね。当時はそうでした。

#### 対外漢語教育のハード・ソフト問題

崔 現在、対外漢語教育を行っている機関は徐々に増えています。多くの外国企業が国内の語学学校と提携を結び、中国語の人材を育成しています。それもその中に含まれます。そうすると、是が非でも中国に来なければならぬというこ

とはありません。またある時には、一種の偶然的要素がからむこともあります。

例えば、ある学校で今年の日本人学生数は昨年と比べて大幅に減少したと聞いています。

鄭 あります。それはハードと関係があります。

王 交通が不便だとか。

鄭 ハードが人数を制限してしまいます。人数は変化しますが、受け入れられる人数には限度があります。天津市には韓国企業がたくさんあるため、韓国人の増加は比較的速いです。私のところでも、大学側は一度校舎を建てたらそれで終わり、さらに建ててはくれません。少なくとも数年のうちには新しい校舎を建ててはくれません。キャパシティには限度がありますので、韓国人が増加することとはつまり他の国の人たちが減少するということです。

崔 私は見たことがありませんがこの種の統計は必ずあるはず。例えば、二〇〇五年には八万五千人が中国に中国語を学びに来ています。そのうち日本人



..... 鄭天剛 [Zheng Tiangang]

はどれだけを占めるかといったような。

劉 南開大学はどうですか。

鄭 全体的な趨勢は大体似たようなものです。人数でいえば当然北京語言大学がこの分野では先輩格であり、どの大学も及びません。本学もここ数年は進展がとも速いです。特に中国がWTOに加盟してからのというもの、学生が一気に増えました。どれぐらいの人が来るかわかりませんが、ときどき受け入れ切れないのではないかと思います。例えば、九月一日から登録手続きが始まりますが、そ

れ以後、半月、一か月、二か月後でもまだ登録に来る可能性があるわけです。しかし私たちは、来るものは拒まず、多ければ多いほどよい。それゆえ、初めに計画していたクラスをいつも最後になつて変更しなければならぬ。本来レベルに応じて四クラス設定していたのが、一気に六クラスに増えたりすることはよくあることです。最近、留学希望者の数を要したりすることはなくなつたようです。

また教師に関しては、各大学それぞれに膨大な非常勤教師群を擁していると思いますが、まず、非常勤教師の育成の強化が必要となります。つまり、大量に募集をし、募集後に研修、その後に選抜をします。実際に十人募集したとすると、大体二人ぐらいしか採用できない、というのが現状です。それでも、毎年大量に募集しなければなりません。これとも関連しますが、ボランティア計画や対外漢語資格証制度——能力証といいますが——などとの関連で教師育成のためのクラスを設置しており、その中から人材を選抜し、育成を行うこともやつていま

す。そのため、現在ちよつと奇妙な現象がおきています。南開大学では毎年学期末に、学生に教師の評価を点数でつけさせているのですが、非常勤教師が専任教師よりいい点を取るケースが出てきたのです。これは、専任教師からすればかなり脅威だと思えます。なぜなら、ボーナスにも影響を与えるからです。例えば、何点以上はいくらというように、すべて規定があります。しかし、お金はまだたいした問題ではありません。面子の問題が大きいのです。ともかく、今のところ非常勤教師の育成という面では比較的うまくいっていると思います。

崔 大体、毎年どれぐらいですか。

鄭 南開大学の非常勤教師に関しては、ここ三年間私が担当していますが、全部で十回募集をし、毎回三〇人ぐらいの応募がありました。当然、この中には重複している人もいるでしょうが、トータルで三百人ぐらいでしょう。しかもこの数は増え続けています。なぜなら私の大学はインターネット上で募集するので、手



続きを行い、しばらく経ってから研修や模擬授業を行います。模擬授業が終了したら、評価委員が採点し順序をつけます。そしてその第一位の人から雇用します。ですから登録者は後を絶ちません。それゆえ、育成の面では比較的しっかりといると思います。この研修は、ただ授業をするだけではありません。どこか不適切なところがあれば指摘をし、指摘をされた人は帰ってまた準備して出直してきます。

崔 一般的にどれぐらい時間がかかりますか。

鄭 一週間です。それほど長くはありません。こうすれば、教員不足の問題は大分解決できます。また大学院生については、大学院を二年制に改定するという話がありました。私たちが大学側とかけあつて結局三年制に戻しました。三年制に戻したのは、中国語教育を行うのであれば、教育実習が非常に大切だからです。大学院生も非常勤教師と一緒に研修に参加します。そしてまた模擬授業を通じて評価されます。それゆえ、授業では

彼らもかなり大きな役割を果たします。大学院生の中にもかなり上手な人がいます。毎年、南開大学から北京語言大学に就職する学生がいます。模擬授業に行った際に落ち着いているので、経験があると思われるようです。やはり普段からの授業経験が比較的豊富ですからね。

現在の主要な問題は教室や宿舍といったハード面にあります。ハードがなかなか整備できない。これには大学首脳の強い決意が必要です。例えば、建てたばかりの学院棟なのに、すぐに手狭に感じられるというのは、そこに見通しの甘さがあると言えます。

留学希望者数の心配はいりません。南開大学には、短期留学生、長期留学生がおり、また学部留学生もいます。外国人の学部留学生は九三年から受け入れを始めたしましたが、現在はかなり多くの学生を募集しています。また春季にも学生募集をするなど、学生のニーズに対応した募集を行っており、留学希望者は比較的多いと思います。また修士課程や博士課程の院生もおり、学生数は北京語言大学の

四分の一程度ですが、多いときには千人余りの学生がいます。短期留学生は、なかなか把握しづらいのですが、普通、一年間に二〇ぐらいの短期セミナーがあります。ここ数年の変化としては、アメリカ、オーストラリア、カナダ、イギリスなど欧米からのセミナーの占める割合が徐々に大きくなっています。以前は主に日本と韓国でしたが、現在、日本の短期セミナーは半分に減少しました。しかし、総体的に留学希望者数の心配はいりません。

次に、先ほど崔先生がおっしゃられた転換期の問題、つまり海外普及事業、中国語の国際的普及への方向転換ですが、これについては対外漢語教育指導小組事務室の政策と歩調を合わせて進めていくべきだと思います。この方向転換は、実際は昨年の会議の時からではなく、その前からすでに始まっています。例えば、私たちが外国に派遣している教師の割合も徐々に大きくなっています。ほぼ四分の一の教師が国外にいます。アメリカで最初の孔子学院がメリーランド州にあり

ますが、うちの段文函先生がその創設に大きく寄与しました。海外の大学に派遣された教師は、派遣先の大学で中国語を教える以外にも、別の重要な任務があります。それは、短期や長期の留学セミナーを組織し引率して来ることです。昨年、従来交流のなかつた大学からいくつかの短期セミナーが来ましたが、それらは皆、うちから派遣された教師が引率してきたものでした。今ではこのような留学生も多くなっています。

またそれ以外に、現在の方針では、教師は外国に行った後、ただ宣伝活動や授業を行うだけでなく、できるだけその国の教授法を学んでくるように求められています。劉先生もご存じだと思いますが、私たちの大学で今、テストクラスを設けています。すでに一年余り経ちました。このテストクラスで行っている教授法は、プリンストン大学の周質平先生が中心になって考案したものを、本学の段文函先生がアメリカで周質平先生から直接訓練を受け、それを基にして開発した新しい教授法です。この教授法の特徴を

一言で言うと、豊富な練習量によって支えられたコミュニケーション重視の授業ということになると思います。まず通常のクラスで語彙や文法などの解説を行い、次にそのクラスを二つに分け、前の授業で習ったことを徹底的に練習し実際に使えるようにするというもので、実際にやってみるとその効果にはすばらしいものがあり、また学生にも好評です。ただこの方法をとると、教師の仕事量は極端に多くなります。教師が授業の準備をする時間は以前の三倍から四倍です。授業を担当する教師は本当に大変です。しかし、とても効果があるものですから、現在初級クラスでこの方法を採用しているのですが、中級クラスまで拡大させたかと思っと思っています。また独自の教材を編集し、同時にその教材に応じた教師用マニュアルも作る予定です。このような例もありますから、いろいろな教授法もできるだけ欧米、特にアメリカに学ぼうと思っっています。ハード面は私たちがどう言ってもどうにもならないので、ソフト面を、つまり教授法や教材などを工夫す

るしかありません。幸い、今実行しているテストクラスの評判は上々ですので、この新しい教授法が他の学校にも知れ渡れば、南開大学にとって大きなセールスポイントになると思います。

その他、国外の留学希望者層が拡大していることについて、私の考え方は崔先生と大体同じです。現在は一つの傾向があるようです。それは、次第に低年齢化しているということです。例えば一昨年、南開大学の大学院生が、入学してすぐ一か月の研修を行い、タイにボランティアとして派遣されました。彼らはタイで一年過ごし、昨年帰国しました。彼らに向こうの状況を聞きましたが、基本的に小学校や中学校で教えたため、その年齢層が私たちの新しい課題となりました。アメリカでも同じです。南開大学では、アメリカのユタ大学の短期セミナーを実施していますが、昨年そのセミナーの引率者が来た時、遠隔授業を行うことが提案されました。実は、ユタ州には中国語の科目を設けている中学や高校がたくさんあるのですが、教師がいないため、まず

一つの学校をテスト拠点として、遠隔授業を行ってみるといふものです。遠隔授業の設備は彼らが提供し、それを南開大学に設置することになりました。当然、

ここでも先ほど崔先生がおっしゃられた問題があります。教材の問題です。私たちが使っている教材はみな大学の教材です。アメリカ人向けで、さらにこの年齢層の生徒向けの教材となると本当にわずかしかなりません。またこのような遠隔授業では教材以外の補助的な視聴覚資料が必要なのですが、それらも不足しています。むろん代用品を探すことは容易ですが、この年齢層にマッチした教材として使えるものは本当にわずかです。ですから、暫定的に大学の教材を使うことになりましたが、長期的な目で見るとあまりいい方法ではありません。やはりアメリカの中生専用中国語教材を作成すべきでしょう。

### 留学希望者の変化

鄭 南開大学の日本人学生の様子は北京語言大学とほぼ同じです。大体九〇年代

には、留学生の半分もしくは半分以上が日本人でした。現在、日本人が占める割合は少なくなり、韓国人が学生の三分の二を占めています。

劉 韓国人留学生はそんなに多いのですか。

鄭 これは天津という場所とも関係があります。天津は韓国企業が密集しているところです。天津にはまた、たくさんの方のインターナショナルスクールがあります。生徒は基本的には韓国人の小中高生です。これは、留学生確保の点からいえば非常に都合がよいのです。多くの場合、家族で天津に住み、父親はその企業の社員や重役、母親は専業主婦で、家族の面倒をみ、その子供は学校に通っています。小さい子供は小中高へ、大きくなったら大学へ。このような人がたくさんいるので、韓国人学生の増加の速度が非常に速いのです。これも日本人学生減少の原因の一つでしょう。しかし、これはまた韓国と中国の貿易の増加速度とも正比例をなしています。日本の状況はというと、日本のこのような中国語ブーム

は……。

崔 ブームになってから大分経っています。

鄭 そうですね。すでに相当経っていますので、さらに急速な発展をすることはありえません。

劉 語言大学は「小さな国連」と呼ばれています。現在、どれぐらいの国の学生が勉強をしていますか。

崔 毎年一二〇か国ぐらいです。

劉 一二〇か国、そんなにたくさんですか。本当にその名の通りですね。南開大学はどれぐらいですか。

鄭 そんなにいません。大体二〇か国余りです。

崔 語言大学には、教育部（日本の文部科学省に相当）から割り当てられてきた学生がたくさんいます。留学生数もともと少ない国でまとまった人数がない場合、その多くは私のところに派遣されてきます。多くは海外支援プログラムと関連があります。例えば、一時期、アメリカ人学生はそんなに多くなかったのですが、ここ二、三年また増えてきていま



.....王硯農 [Wang Yannong]

す。これはわが国が第三世界の国のために人材育成すると約束したことと関係があると思います。

劉 先ほど、崔先生は八一年から語言学院でお仕事をされているとおっしゃいましたが、私は八一年に当時、北京語言学院にあった「大平学校」(日本語教師育成センター)で一年間仕事をしました。私はその時、非常に多くのアフリカ人学生を至るところで見ました。

王 そう。あのころは多かったです。劉 学生宿舍一棟がほとんどアフリカ人

学生だったそうですね。

王 大半が南アフリカ地域からの学生でした。南アフリカでなければ中央アフリカでしたね。

劉 これも対外漢語教育の各時期の特徴を表していますね。日本について言えば、二〇年前は、おそらく日本の大学で中国語の科目を開設しているところが比較的少なかったために、中国語を学びたいと思う人の多くは、中国に来てはじめて自分の願いがかなったのです。現在、日本のほとんどの大学が中国語の科目を開設しています。こうなると多くの人は日本国内で勉強することができず、短期セミナーに参加する人がいますが、それは中国に来て中国語を実際に使うためです。中国の変化を見たりするためです。

崔 そう。それも非常に重要な要因かも知れません。学生が分散したのです。以前は中国語を学ぶところがなく、中国に来るしかありませんでした。

劉 そうです。崔 さらに前だと、他の大学にはなく、

北京語言大学に来るしかありませんでした。

劉 ですから、中国国内の大学で中国語を学ぶ日本人は相対的に減少しています。が、実際は日本で中国語を学んでいる人数はまだ増え続けていると私は思うのです。

全員 そう。まだ増加しています。

王 ですから先ほどおっしゃられたように、これからの対象は学生だけではありません。日本を考えてみてください、専業主婦やお年寄で中国語を学ぶ人が非常に多いでしょう。HSKの試験監督をしたときにわかったのですが、受験者の多くは社会人で、その割合はかなり高いです。

劉 日本には中国語検定試験というものがあります。毎年二回実施されます。上半期に一回、下半期に一回。私は試験監督に行きますが、試験会場で受験者を見てみると、初級レベルの試験を受験する人の年齢層は比較的幅広く、下は一二歳の小学生から上は七、八〇歳の老人でした。しかし、上級レベルになると、基本

的には三〇から五〇歳代の人でした。初級クラスで勉強をする人がとても多く、受験する人も多いし、年配の人も多い。ですから日本で中国語はやはりまだ人気があると思います。

### イギリスにおける中国語教育

劉 崔先生にお聞きしたいのですが、崔先生がイギリスにいらつしやる時、大学で教鞭をとられたということですが、イギリスの大学の中国語クラスは一クラス何人でしたか。

崔 イギリスでは二種類の授業がありました。一つは中国語専攻、もう一つは非中国語専攻です。各クラスの学生数はその年の入学者数によって決められます。私はイギリスに二年間いましたが、専攻クラスは十数人、非専攻クラスは二十数人、多いときで三十数人でした。

劉 愛知大学現代中国学部の各クラスの人数は二五人以内です。第二外国語は一クラス五〇人以内です。現代中国学部では中国語は専攻科目に相当しますので、一クラスの学生数は二三、四人ほどで

す。二三、四人程度を維持するだけでも、日本では容易ではありません。

鄭 そうですね。しかし実際はやはり多いです。できれば十数人ですね。

劉 一五人ぐらいが最も理想的ですね。

崔 八五年から八七年までアメリカにいた当時、彼らは一クラスの学生数が増えたり八人を越えたら、もう一クラス増やす申請ができるかと定めていました。

劉 他に、少しお聞きしたいのですが、欧米人が中国語を学ぶ際にはどのような特徴がありますか。彼らの言語には漢字はありませんので、漢字は書けません。

教育過程において、学生が漢字を書いたり、覚えたりすることに特に力をいれたいですか。

崔 実際、そんなことはしません。

劉 なぜですか。

崔 状況が異なります。イギリスの大学はみなそれぞれに特徴があります。例えば、比較的大きな三つの学校があります。一つはロンドン大学アジア・アフリカ学院で、ここでは中国語を学ぶのが主となっています。その教授法は語言大学

の方法に少し似ています。また、私がいましたシェフィールド大学の学部は、中国語修得と中国研究を結び付けており、研究的性質を持っています。ですから、学生が漢字を書くことに対してそんなに厳しくありません。文章が読めればそれでいいのです。ここでは、閲読を通して、実際は英語と中国語と二種類の言語を使って、学生に中国の状況を理解させたいと考えています。科目の半分は中国語で、残りの半分は中国学や中国事情といった科目です。中国語の授業の際は、学生に現代中国の資料をたくさん配り、テーマごとに学生に読ませたり、ヒアリングや会話や作文などを練習させたりします。

シェフィールド大学は四年制です。そのうち一年目は、佟秉正先生の編集した『漢語口語課本』を使って中国語の基礎を学びます。二年目は南京大学に行き、そこで一年間勉強をします。その後、帰国するともう一度二、三次、実際には三年目となります。二、三次と三年次は中国に関する知識やテーマを二、四の単元に分け

ます。例えば、中国経済、中国政治、中国教育などで、経済をさらに中国金融、中国対外貿易などに分けます。決まった教材はなく、すべて担当教師がこれらのテーマに基づいて資料を探します。資料はテーマに合ったもので、なおかつ学生の語学レベルに合ったものでなければなりません。教師は新出単語を抜き出し、資料を印刷し学生に配ります。

王 その四年間はずっと中国語を勉強するのですか。先ほどコースを分けるとおっしゃいましたが、分けた後も学生は中国語を勉強するんですね。

崔 ええ、先ほど話したのは中国語の科目のことで、二、三年次の中国語の科目はテーマ別に組まれます。ヒアリング、閲読、会話などもあります。内容はこれらのテーマにまつわるものです。ヒアリング練習の資料には、これらに関連したものを選ばなければなりません。閲読、会話では、これらの資料を事前に学生に配り、授業の時に議論します。例えば、一つの単元に全部で六編の文章があるとします。学生は三つのグループに分か

れ、各グループごとにそのうちの二編の文章を重点的に読みます。その他の部分はざっと目を通すだけかまいません。授業の時に学生に説明させ、各グループは自分の担当した二編の文章を詳しく説明します。その他の学生はその説明を聞き、どう思うかを発表し、みなで議論します。単元ごとに学生は何かを書かなければなりません。英語で書いてもいいし、中国語で書いてもかまいません。彼らの書いた中国語を見ましたが、よく書けているものもありました。

この方法は私たちのものとは異なりませんが、私たちは言語なら言語だけを教えますが、彼らは言語を勉強しながら、一方で中国を理解します。彼らが議論する問題はみな実際の問題であり、その考え方も彼ら自身の考え方なのです。例えば、ある学生は一人っ子政策はよくないと思いい、ある学生はよいと思います。そうして議論が始まります。すべての授業は活発で、実用性が高いもので、中国に対する理解もさらに深まります。

ロンドン大学アジア・アフリカ学院

は、イギリスで中国語を学ぶ学生がもっとも多い学校です。比較的きつちりとした言語教育を行っています。もう一つ、学生が比較的多いのが、リーズ大学です。この大学の特徴は、翻訳課程が特に優れているということです。

劉 翻訳ですか。通訳ですか。

崔 翻訳も通訳もどちらもあります。また文学も優秀です。これは教師の状況によるもので、各大学みな異なります。国内の中国語教育と比較すると、総体的に言えば、学生の発想が比較的自由で、しきたりなどもそれほど多くありません。このため、教師の力の入れ具合も強くなりますし、準備しなければならぬものもより多くなります。学生の中国語能力は、私たちが求めるような整った正確なものではありませんが、表現力、特に読解力は国内に比べてかなり高いようです。彼らのために教師が選択した資料を見ましたが、かなり難しいと思われるものもありました。しかし、彼らは読んで聞いてもよく理解していました。

王 彼らは漢字が読めるのですか。

崔 読めます。

王 先生が先ほどご紹介された三つのケースは、みな中国語専攻ですよね。つまり、専門的に外国語を学ぶ外国語大学と同じですよ。

劉 専門的に中国語を学ぶ場合、中国語の科目にはどんなものがありますか。

崔 一年次の中国語は一冊の本を使います。しかし、科目は語彙、文法、会話、ヒアリングに分かれます。

鄭 一年次で文法があるんですね。

崔 ええ、テキストの中の文法を勉強します。これは英語で行います。語彙も英語で行います。会話は主に練習を行います。高学年になると閲読、ヒアリング、それと会話があります。その他の、例えば中国歴史、中国経済、中国社会などの科目は英語で授業を行います。

劉 彼らが設けているこれらの科目は、私たち愛知大学のそれと少し似ていますね。

王 しかし、違います。彼らは基本的に中国語を学ぶことが主です。

鄭 彼らは、むしろ中国国内の学部留学

生(本科生)に近いです。現在、南開大学の学部でもたくさんの科目を開設しています。当然、一節一章というふうには授業を行いません。また中国歴史、中国概況など、いろいろな選択科目があり、これらはみな中国語で授業をします。ただ、ときどき二か国語で行い、英語を使用することもあります。

王 理解してほしいと思うものは英語で話し、身につけて欲しいと思うものは中国語で話します。これはいいですよ。

崔 授業の際はやはり中国語で討論するようにいいいます。しかし、学生たちは熱くなってくると英語を使ってしまおう。

鄭 そう、議論が白熱してくるとついつい(笑)。

### 日本人学生の中国語学習の問題点

鄭 日本人学生が中国語を勉強する際には、問題が割合に多いです。彼ら個人の性格にしても、漢字の利点と弊害にしても、すべて大きな問題です。しかし、一番大きな問題は学生のやる気です。

アジアの人たちは一般的に実利的な目

的意識が強く、外国語を勉強するにしても、欧米人とは違います。欧米人の中にも現在は実利実益を目的とする人も確かにいますが、以前、私が欧米人に中国語をなぜ勉強するかを聞いたところ、およそ十人中九人が「好きだから」または「自分でもわからないけど」と言いました。彼らの授業の雰囲気はとても活気にあふれています。問題は、実利を目的とするにも、長期的な目標と目先の目標があることです。例を挙げると、現在仕事をしている韓国人にとつて、中国語の学習が昇格や昇給に関わるとしたら、それはその人の目標となります。しかし、日本人の多くの学生の目標はもっと目先のものとなっているように思います。彼らは、ただ単位のためというふうになりがちです。このような動機は非常に弱いものです。

人間の学習の原動力となるものには、目標以外にも一つあります。それは興味です。私はこの興味をもつとうまく利用できるのではないかと思っています。もし何ら実益を伴う目的がなくても、そ

れを好きになつてしまえばいいのです。多くの日本人学生の問題は、外国語を学び、使う楽しさを味わっていないということです。興味と楽しさは密接に関係しています。もし楽しみを味わえば、きっと一生懸命勉強するはずで、皆さんにもこのような経験があると思います。私が日本に行つて間もないころは、日本語がまだできませんでした。そのころ、布教の人だつたと思いますが、私のところを訪ねて来ました。他の人は追い払つたのですが、私は毎回彼を歓迎しました。なぜかという、彼の言うことを少しでも聞き取ることができたり、少しでも自分の話していることが通じたりしたら、うれしかったからです。このうれしさは他の何ものにも替えがたいものです。しかし、多くの日本人学生にはこの点が非常に欠けているように思います。中国へ留学に来て一か月ほど経つたころ、数人の日本人学生に「天津の食品街を知っていますか」と尋ねたら、「知りません」という答えが返つて来ました。あんなに有名で、南開大学から自転車で二

〇分もあればいける場所へすら行つていなかったのです。彼らは好奇心や中国人と交流したいという欲求があまり強くないのかもしれない。ですから、設置科目の問題以外に、中国にいるにしろ、日本にいるにしろ、学生にもつと多くの交流の機会を与えてやるべきだと思えます。中国人と交流を行えば、学生は「あれ、おもしろいな」と思うはずで、こゝなれば、その学生は以後も続けて勉強をするでしょう。現在の日本では、他の国に比べてこのような機会を比較的つくりやすいと思います。日本には多くの中国人がいますからね。中国人とこのような交流を行うことはよい方法だと思えます。やる気もなく、興味もないということになると、難しいです。授業中、積極的に欠けるのも間違いなくこれと関係があります。当然、他の原因もあります。

が、明るい性格の人は進歩が速いですね。  
王 そうですね。  
劉 先ほど鄭先生がおっしゃつたように、せっかく天津にいるのに食品街にすら行かない学生もいるでしょうが、大多数の学生は活動的です。例えば、天津の大通りでも路地でも、おそらく愛知大学の学生が行つてない場所はないぐらいでしょう。以前、数人の学生が天津で三輪自転車を購入し、交代でそれをこいで天津港まで行つたこともあります。このように活動的な学生もいます。  
鄭 そうですね。そういう学生もいますね。  
劉 結局は好奇心があるかないかです。  
王 日本と中国はこんなにも近く、しかも共に漢字の国です。しかし、日本人が中国語を勉強するのは、他国の人より厄介で、大変です。  
まず発音の面から話しましょう。日本人が中国語の母音を正しく発音するのは難しい。なぜかという、日本語には似たような音が存在するからです。もしア





劉柏林 [Liu Bailin] .....

フリカ人に教えるのなら、教えやすい。例えば「a」という母音ですが、彼らの言語にはそういう音がないので、教師の言うとおりの大きく口を開け、「ア」と発音します。日本の学生は少しはにかみまです。恥ずかしいのと、日本語に「あ」という口をあまり開けない音があるからです。教師が大きく口を開けるように言っても、開けられない。恥ずかしいのです(笑)。

鄭 特に「u」のような音は、口を突き

突き出しません。日本語にも似たような音があり、それは口を突き出さないからです。ですから、授業のときには、「豚の口はどんな形をしているか考えてごらん、uの口はあんな感じですよ」と学生に言っています。

王 あまりに似ていると逆に勉強しづらいうということですね。中国語は日本語と似ていて勉強しやすそうですが、実際は日本語の音は少なく、中国語は音が多いため、学生が発音できない音がたくさんあり、これは他の国の言語よりも多いくらいです。また日本語には四声と呼ばれる声調もあります。ですから学生は学び始めた時、とても大変です。音も覚えなければならぬし、声調も覚えなければならぬ。本当に難しい。

劉 外国語を学ぶとき、母語の影響は結構大きいと思います。それに縛られてしまうこともあります。

王 次に「聞く」「話す」「読む」「書く」という点からいうと、「読む」が日本人学生にとっては最も易しいと思います。しかし、中国語の簡体字がまた学生を困

らせます。中国語の「団」は、日本語では「団」と書きます。学生は二種類の漢字を覚えなければならず、厄介です。これは、ほんのささいな問題で、「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、日本人が最も難しいのはやはり「聞く」と「話す」ですよ。

鄭 日本は毎年、外来語を大量にそのままの形で取り入れて、仮名で表記しています。この方法は、日本人に錯覚を起させてしまいます。これらの仮名を使えば、複雑な音でも発音できると思ってしまうのです。その結果、実際にそれを出したとき、相手は何をいっているか少しもわからないということになります。これが、中国語学習の面からいうと、発音の低レベル化を招きます。この中国語の発音は基本的にこの日本語と変わらないですと言わなければ、仮名をふってあるテキストもあります。

王 ええ、あの表記方法は誤解を招きますね。

鄭 仮名で表記してしまうと、学生はそういう発音が正しく、それでいいと思っ

てしまいます。しかし実際はまったく違  
います。これも問題ですね。

劉 日本の仮名で音声表記をすると、正  
確に中国語を発音するのは難しく、表記  
に基づいて発音してしまうと九〇%以上  
は正確ではありません。私は仮名表記を  
用いて外国語の発音を勉強することに賛  
成しません。

### 教材と学生のやる気

王 もう一つは、先ほど皆さんがおつ  
しやった教材の問題なのですが、教材は  
とても大切だと思います。今後、私たち  
の任務は非常に大きく、いろいろなタイ  
プの人に対してそれぞれ異なる教材を編  
集していかねければなりません。現在、  
日本の中国語教材はとも多く、毎年新  
しい教材が出版されます。しかし、それ  
らはその対象に十分にあつたものではあ  
りません。私が非常勤で勤めていたある  
外国語大学は、中国語専攻だったのです  
がオリジナル教材はありませんでした。  
そこで、中国で作られた教材を使用して  
いたのですが、中国の教材は中国国内で

勉強するときに使うもので、状況は日本  
と異なります。学生はみな二〇歳そこそ  
こののに、中国の教材は、「一人っ子の  
小皇帝」やら「老人デイスコ」といった  
内容で、彼らの生活とかけ離れ過ぎてい  
ます。これでは日本の学生は興味を持て  
るわけがありません。興味を持たせよう  
もありません。ですから、今後教材を編  
集するならば、愛知大学のような教材、  
つまりそれは南開大学への留学に向けた  
もので、勉強したら留学先ですぐ使える  
ような教材ですが、そういう対象が明確  
な教材を編集しなければなりません。

劉 そうですね。教材を編集するときに  
は、必ず対象にあつたものを考えなければ  
なりません。あつたものでなければ、  
学生は勉強しても面白くないでしょう。  
ですから、編集する教材は学生に身近な  
ものとしなければなりません。

鄭 そうですね。教材は必ず学生に身近  
なものとするべきです。そうすれば、勉  
強してすぐ使えます。

王 使えるところがほんの一部しかなく  
て、それ以外は全部使えなかつたら、間

違いなくその本を勉強したくはならない  
でしょう。

鄭 問題は、「学ぶ」と「使う」が結び  
ついていないところにあります。授業で  
学ぶものと授業以外の生活が密接に結び  
ついて、学んだらすぐ生活の中で使える  
ということであれば、学生は興味を持つ  
と思います。またそうなれば基礎を固め  
ることもできます。私はよく留学してい  
る学生に、宿舎は日本じゃないんだか  
ら、どうしていつも中にばかりいるん  
だ、もつと掃除のおばさんたちと話でも  
したらどうか、と言っています。

王 日本人学生の中にもよく自覚してい  
る学生がいます。中国留学に行きたいと  
いう学生が私にどの大学がよいか聞いて  
きましたので、それは一言では答えられ  
ない、目的によつて選ぶ大学が変わつて  
くると言つたところ、その学生は日本人  
を避けたいと言つて、貴州へ行きまし  
た。多分貴州には日本人は行かないで  
しよう（笑）。

劉 私のところには、新疆や雲南に中国  
語を勉強しに行く学生もいます。

鄭 実際は、必ずしも日本人から遠ざかる必要はありません。要は自分自身なのです。以前、教え子の中によくできる日本人学生がいました。留学生食堂で昼食を食べない学生もいますが、その学生は、毎食中国人学生食堂で食事をし、たくさんの友達をつくりました。食事の間は会話のいい機会ですよね。ですからこの学生の伸びるのは非常に速かったです。

劉 個人の主体的なやる気がとても大切なのです。愛知大学の学生は南開大学の中にある愛大会館で生活しますが、これには利点も弊害もあると思います。利点というのは、学生を管理しやすいということです。弊害は先ほどもお話の中でした。日本学生が集まって日本語で話してしまうことです。これは中国語の勉強にとっては好ましくない状態です。そこで愛知大学では、現地プログラムの実施期間中、日本人学生に語学パートナーとして南開大学の学生を紹介しています。ほとんどの学生が中国人学生とパートナーを組み、毎週少なくとも一回

か二回は会って交流したり勉強をしたりします。これは学生の中国語学習の上で大いに役立つています。

鄭 また、現地プログラムの最後の週に社会調査を行います。学生に一五のテーマを用意しますが、自分でテーマを決めることもできます。この社会調査の対象は基本的に学生の語学パートナーです。

愛知大学の学生は、南開大学に留学に来て一週間後に語学パートナーを紹介されます。社会調査では、それぞれの語学パートナーにテーマに従ってさまざまな質問をし、その結果を調査レポートにまとめて発表しなければなりません。このような活動はいいと思います。少なくとも日本人学生が必ず中国人と接するように促しているわけですから。

また語学パートナーですが、この語学パートナーのやり方も欧米人と対照的です。私の大学では、毎年五月から八月まで、欧米人の語学セミナーが集中します。特にアメリカのセミナーですが、彼らはマンツーマンの補講を行います。このために私が学生を集めるのですが、彼

らが学生に支払う補講費は非常に高額です。私はこんなに高額だと授業料よりも高くなり、まずいのではないかと彼らに言いましたが、今年はさらに補講費を上げると言いました。それほど、彼らはこのマンツーマンを重視しているのです。

しかし、彼らはこのマンツーマンに厳しい規定を設けています。例えば、十人のアメリカ人学生に、十人の中国人学生を紹介するのですが、一週間ごとに相手を換え、最後には全員と接するようにします。そして、時間や内容を取り決め、今日は何をするか、何をすべきかを私たちが中国人学生に指導します。補講を行ったらそれで終わりではありません。中国人学生は終了後、報告書を書き、引率者に直接報告しなければなりません。学生数も多くないですから、一人ひとりに対応できます。マンツーマンの中で得るものは、授業の中で得るものよりも多く、だからこそ重視をするのです。

王 アメリカ人はこのような学習方法をとっても重視しますね。アメリカ人の団体がくると、夏休みであっても何をしよう

にもこんな感じですので、教師は全日程につきそわなければなりません。

鄭 教師は、昼食でさえ学生と一緒にとるように求められます。

劉 今おっしゃっているのは短期セミナーですよ。

鄭 そうです。短期です。短期とは言いませんが、それほど短くはありません。一般的に八週間から十週間ぐらいです。五月に来て、八月上旬か中旬に帰って行きます。

王 それは大変ですね。そういえば、アメリカ人学生は中国滞在期間中に英語を話してはいけないと定めていて、英語を話した人は減点をされると聞きました。

鄭 ええ、ミネソタ大学は基本的にそうです。こちらに来る前に学生と取り決めに交わします。この取り決めですが、宿舍や教室といった学校の範囲内では一言の英語も話してはならず、必ず中国語を話さなければならぬというものです。身振り手振りでも何をしてよいが、何があるかと英語を話してはいけないのです。守らなければならぬ取り決めがあ

る、この点はとても素晴らしいと思えます。私が大学で勉強している時には、一階が教室で、上階が宿舍、宿舍は三人一部屋で、中国人が一人と外国人二人が一階に生活していました。その外国人も必ず違う国籍でなければなりません。そのころ私の同級生は、選ばれて彼らと同居でしたが、これはとてもいい方法です。中国人が一人いることで、二人の外国人は他の言語を話すことができせん。中国語しか話せないのです。またその中国人は、自然と彼らの先生となります。一緒に住んでいるわけですから、二十四時間すべてにおいて中国語を使うことになります。こうなると実際に効果は絶大です。

劉 これも参考にした方法ですね。

鄭 二〇〇三年はSARS（重症急性呼吸器症候群）が起こった関係で、現地プログラムの学生は途中で帰国することになり、後半は我々南開大学の教員が愛知大学へ教えに行きました。学生たちは日本に戻ってからよく頑張ってくれましたが、彼らをとりにまく環境が大きく変

わったので心配でした。ただ、実際には結構中国語を使う機会があったと思います。なぜかという、教師と学生が接する機会が多かったからです。当時、私は毎日電車で四〇分ぐらい乗って通勤していましたが、途中うとうとしたと思います。それすらできませんでした（笑）。

多くの学生が同じ電車に乗っており、大学に着くまで一緒に話をしました。このように話をする機会が多かったので、学生と教師の関係はとも良く、私たちが帰国する際、空港は遠いのに多くの学生が見送りに来てくれました。

#### 日本人学生の依存心と創造力

劉 もう一つ私が気になっているのは、授業中の教師と学生の質疑応答についてです。これは各教師によって異なるのかもしれません。私たちが中国人教師が授業をする時に学生に求めるものは、日本人教師と違うところがあるような気がします。例えば、授業でこちらが質問をして学生が答えるとき、日本人学生は順番に答えるのが習慣になっているのか、突

然当てるとうまく答えられません。

鄭 心の準備のないときに、突然当てるので驚いてしまうのですね。しかし、言語によるコミュニケーションとはそういうものです。言語コミュニケーションにおいて準備などできるわけがありません。話をしている、相手が何を質問してくるかなど知る由もありませんから。このような心構えがないと永遠に外国語は上達しにくいのですよ。それでも学生はいつも先にしつかりと書いてから話したいようです。

一つ例を挙げましょう。毎年、現地プログラムには教学実践活動というものがあります。どんな活動かといいますと、農家に行き、農民と話をしたり、村民委員会で村長が講話をし、その後で学生が質問をしたりします。ここで毎年同じような問題が起こります。質問者がいなくて、場が静まってしまふのです。引率教師と農家の人が楽しそうに話しているのに対し、学生は梨やりんごを食べているだけなのです。そこである年、先に数人の教師を下見に行かせ、学生のために百

個ほどの質問集を作り、それを学生に一部ずつ配りました。全部覚えさせたわけではなく、興味を持ったところをいくつか覚えるように言いました。しかし実際には、学生はみなこの質問集をかばんの中にいれ、質問するときに取り出してそれを読むのです。このことから、学生が文字に頼り過ぎて文字から離れられないということがわかりますが、これは大きな問題です。

王 また日本人学生の特徴として、決められた枠を出ようとしないということが挙げられます。創造性に欠けていると言っているかもしれません。例えば、彼らに自分の家族について紹介させたことがあります。中国語を学んで大分たったころです。しかし、どの学生も同じで、父親は何々、母親は何々で、誰もそれ以上、例えば祖母について話したりしません。話そうとしないのです(笑)。他の人が言っていない祖母の話を自分でしたら、笑われると思っているのです。ある時、ちよつと工夫して言った学生がいましたが、その時にはすぐにその学生

をほめてやりました。

鄭 学生の文字への依存心を見ても、文字は学生にとって、利点より弊害が大きいのといえるでしょう。勉強し始めのころ、文字は理解するのに大いに役立ちます。ですから欧米人は日本人学生を羨ましがっています。しかし実際には、多くの単語は見た目では同じですが、意味は異なります。例えば宿題をするとき、特に作文ですが、その文を見ると明らかに一つ一つ辞書を引いたものであることがわかります。まず頭の中で日本語の意味を考え、その後、辞書を引きます。調べた単語が古くさいものであつても、それもそのまま入っていたりします。こんな状況が非常に多い。

それ以外に、非常に深刻な問題は何かといえますと、自らが覚えようとせず、コンピュータに脳の代わりをさせていることです。つまり、文字への依存から電子辞書への依存へと変わったのです。現在、日本人学生にとって、電子辞書は欠かせないものとなっています。授業の時も一人一台持って来ます。教師が何か質

問をすると、学生は「ちよつと待つてく  
ださい」と言つて電子辞書を引きます。  
中国人との交流の時ほもつと顯著です。  
ですから私は、少なくとも授業の時だけ  
は電子辞書を持ち込み禁止にするといつ  
た制度を設けるべきだと思ひます。なぜ  
なら、電子辞書を使うということはコ  
ミュニケーションを放棄するということ  
になるからです。覚えなくても、電子辞  
書の中にあるから探せばいいというので  
は、コミュニケーションになりません。

もし反応を速くしたいなら自分の頭こそ  
が辞書であり、頭を使つて考えなければ  
ならないということを知らなければなり  
ません。

王 今、鄭先生がおつしやつたことです  
が、昔からずっとそうです。授業で作文  
をさせますが学生はできません。そこで  
辞書を取り出し、当時は電子辞書などあ  
りませんので、その紙の辞書をめくつ  
て、その中に載つていくつかの例文  
を探しあて、それぞれこの例文を使い、  
結局一クラス全員が同じ例文を書き写し  
ます。他には写すものがありませんから

ね。自分では考えることができないので  
す。それに對し欧米人は、考えることは  
とても変わつていますが、面白いです。  
よく頭を使つています。

劉 私たちは何とかして、日本人学生  
の、電子辞書に依存して自分の頭を使つ  
て考えないというよくない勉強法を変え  
させなければなりません。会話の授業の  
最初に、テキストの内容と自分の実際の  
状況に基づいて学生たちに会話をさせた  
のですが、会話中もテキストを持ち、相  
手を見ずテキストだけを見ていました。  
彼らがテキストを実際に見ているかどう  
かは別にして、テキストがないと不安な  
のです。

鄭 依存心が非常に強いです。例えば、  
テキストの内容について質問したら、学  
生はテキストをそのまま読んで答えま  
す。自分の頭で答えを考えないので、  
習慣の問題が大変重要でです。もしこのよ  
うな意識を変え、自ら考えるように努力  
したら、かなり上達するでしょう。欧米  
の学生を考えてみてください。彼らは文  
字に依存できないので、音に依存するし

がありません。彼らの頭の中には、音と  
いう形で中国語が蓄えられています。音  
は文字よりも速く反応できます。ですか  
ら、彼らは頭の中ですばやく文を作り、  
すばやく言い表すことができるのです。

日本人学生は、まず日本語で考え、それ  
を中国語の単語に置き換え並び替えま  
す。

王 その上、日本語と中国語の文法は異  
なり、動詞と目的語の順序が逆ですの  
で、さらに厄介です。

#### 対外漢語教育の問題点と改善策

鄭 現在、国内の対外漢語教育は日本人  
に對してだけでなく、ある問題を抱えて  
います。何かといひますと、朗読をあま  
り重視せず、また暗記などはなおさらで  
す。しかし、中国人が外国語を学ぶとき  
の秘訣は、最も原始的ですが最も有効な  
方法、つまり暗記です。大きな声で暗唱  
をすることですが、一般的には学生に暗  
唱を強制しにくく、教師もあきらめてし  
まうのです。初期段階で、暗唱がよい方  
法だということは学生に言ひます。実際

にもし毎日大きな声で朗読をしたなら、たとえ暗記できなくても、その言語の語感を得ることができません。言語学習でも重要なものが、最終的にこの語感を得ることなのです。語感があって初めてその外国語を使って思考をすることができのです。もしこの語感がなければ考えることはできないでしょう。

劉 今、鄭先生がおっしゃられたのは次の段階の問題だと思えます。重要なのは、その前の段階で、語学を勉強しようというのにテープすら聞かないということとです。音を模倣しなければ、最も基本的な音の把握も語感も養うことができません。これでは学んでいる言語で考えることは到底できません。初級者に最初からたくさん聞くように言うことが基本だと思えます。ですから私は常に学生にたくさん聞き、たくさん練習するように言います。

鄭 聞くことは非常に大切です。インプットはアウトプットよりも多くなければならないからです。しかし、現状ではインプットはアウトプットにはるかに及

んでいません。私の大学ではすべてのテキストにはテープがついており、学生はみなテープを持っています。教室の中にはL1教室もあり、毎晩二時間その教室を開放しているのですが、クラスの学生に聞くと、利用者は十人に満たないのです。このように聞くことを重視しないのは確かに大きな問題です。

劉 やはり学生がたくさん聞くように何か対策を講じなければならぬと思えます。

鄭 そうですね。これは大きな問題です。次に、学習方法について話したいと思えます。欧米では現在、この面での研究が広く行われていますし、中国でも多くの人が対外漢語教育の学習方法について研究をしています。一般的に日本ではこの面での研究があまりなされてはいないような気がします。私は学習方法も一つのテーマとして考えてもいいのではないかと思います。日本人学生が来たら、私はまず認知教育を行います。学習者に言語の学習とその他の知識の学習が異なるこ

とを教えるのです。言語を学ぶ場合、学生にはこのような観念が頭の中にあるべきなのに、実際にはこの観念がないからです。言語を勉強するならば、最後は「聞く」「話す」「読む」「書く」ができるレベルに到達しなければなりません。これらの技術を身につけるのに必要なのはどれだけ単語を覚えたかではありませんからね。

外国語をマスターするのに何が必要かという点、まず目標が必要で、この目標は私たちが決めてあげてもかまいません。例えば、HSK試験ですが、二次次には何級、三次次は何級、四次次は何級というように決めることもできます。具体的に数値目標を示したほうがいいと思えます。あるいはもっと遠い目標を持つことも大切です。中国語を勉強して将来何をするかが決まっていたら、勉強方法も決まります。目標ができれば、計画を立て、その計画を実行する中で、いろいろな対策を講じます。例えば、勉強するとき、どんな勉強方法が自分に必要かを考えるのです。もし暗唱をするならば、私

がいつも言っていることですが、毎晩三〇分、習ったテキストを覚えるだけでいいのです。これで上達できるのですが、しかしほとんどの人はやっています。つまり、初めからそういう計画を立てていなかったということです。

先ほど少し話がでしたが、感情面について言うと、恥ずかしいと思う心理をいかに克服し、他人と協力していくかが問題です。まず彼らにこの感情教育をしなければなりません。言語の学習では図々しくなければならず、恥ずかしがってはいけないことなどを教育します。

王 しかし、短い中国滞在期間中では、状況を変えることはできないでしょう。

大部分の人がそんな感じですから。鄭 勉強を始める前の学生に、中国語学習の楽しさを見せるというのもいいかもしれませんが、留學生が中国で行っているさまざまな交流活動や座談会、友人と談笑している様子をビデオに撮り、それを事前教育として学生に見せるのです。そうでなければ、学生はいきなり中国での生活に入っていくことにな

ります。特に、最初の試験の成績が悪かったら、学生は何か棒で殴られたぐらいのダメージを受けるようです。ですから、可能であれば、やはり何らかの対策をとったほうがいいと思います。根本から変わるとは言いませんが、この年齢層の学生ならまだ改善の余地があると思います。

劉 学生に目標を持たせ、もっと自由に考えさせ、授業の雰囲気を活発なものとする。これは日本人学生にとって非常に重要です。授業に活気がなかったら、若い学生のやる気は引き出せません。

王 彼らにできるだけたくさん話させればいいのです。

鄭 まさにその通りです。中国では詳細に説明し、たくさん練習させるということを重視しています。また、留學生がよくやる間違いのうち、多分、母語の影響は一部だけで、実際には教師の間違った教え方に原因があると思います。中国語の規則はそれ自体の研究がまだはっきりとした結論を出していないので、曖昧なことを教えてしまっているのです。

王 テキストの中に省くべきところや足りないところがあってもわからず、そのテキストに載っていることを、そのまま学生に教えてしまいます。

鄭 日本人学生は文法にすぐこだわるので、一度その規則を教えてしまうと、二度と変えようとしません。

王 そうですね。私が文法を教える時、あまり重要でないものはひとまず説明しませんし、難しすぎるものも教えませんが、重要なものを先に教えます。しかし、それを信用せず全部教えるようにいつてくる学生もいます。

劉 外国語教育というのは実は学際的な学科で、私たちにとって、経験を積まなければならぬことはまだたくさんあります。文法と会話を対立させてはいけません。対立させてしまうと、学習効果が低下します。ですから、会話と文法の双方を結び付けるべきだと思います。文法の説明を聞いた後すぐに練習をするといったように、その場で身につけることが大切です。

例えば、多くの学生が中国語の否定副



「詞である「不」と「没」を区別できません。辞書にも教科書にも一応の説明はありますが、実際に使うとなると混乱してしまうようです。どちらも否定表現だから、どちらを使っても構わないと思ってしまうのです。このような間違いは日本語と中国語を対立させるところから起ります。学生に教える場合に、文法にしろ何にしろ、順を追って少しずつ教えるべきだと思います。一度にたくさん教えるのと、間違えやすい。また先ほど、授業中の練習はとても大切だという話をしましたが、授業でただ聞くだけで練習をしなれば、学生もなかなか吸収できません。

崔 先ほどから私は、愛知大学と南開大学が共同で新しい教授法を開発することができないだろうかと考えていました。常に西洋の方法に従って行う必要はありません。教育の総合的な考え方は同じです。参考にするればいいのです。日本人学生のこれらの弱点に対しては、新しい方法を考えればいいのです。成功している言語教育は、制度つまり管理方法に

よるところが大きい。語学教育は一つの生産過程とみなすことができ、一連の工程があります。それを制御することが非常に大切です。もし私たちが有効な教育プロセスを見つけ、そのプロセスに基づいて厳格な教育を行えば、状況をいくらかは変えることができます。

鄭 例えば、アメリカの夏季セミナーは、中国語教育を一種の生産過程とみなしています。教師も学生も新しいものを作り出す必要はなく、順序に従って少しずつ進んでいけばいい。彼らは毎日、一限目は合同授業を行います。一クラスは二五人です。教師が一通りテキストを説明し、その課の重点を教えます。二限目は、十ぐらいの重要ポイントを練習します。それは文型であったり、語句であったりしますが、教師は何も話す必要はありません。ただ、練習問題を出すくらいで、できるだけ学生に話させるようにします。手間はかかりません。そして、これに管理方法も組み合わせるのです。母国語を話してはいけないこと、三度の食事必ず食堂にいつて食べることを、教師

も食堂に行つて食事をとり、学生が中国語を話すのをサポートすることなども、その中に含まれます。午後もしつかりスケジュールが組まれており、週二回語学パートナーと会うことになっています。話し、話の内容も決められています。このとき発音の矯正なども行われます。それ以外の日は作文を書きます。夜は翌日の予習時間になっています。このように学生はぶつ通しで勉強し、一息つく暇もありません。しかしそういう勉強を九週間続けるので、学生の上達は非常に速いです。本当のカンヅメ教育ですね。中に押し込められて。

劉 日本の大学でも例えば「合宿」という形でこのようなカンヅメ教育を行うことができます。実は、愛知大学現代中国学部が南開大学で実施している現地プログラム（初志は、カンヅメ教育を行うというものでした。方向性はあつていますが）と思いますが、やり方はまだ工夫する必要があると思います。

崔 もう一つ大事な問題があると思います。それは講義内容です。学生に何を教

えるか。私はイギリスの方法をとっても気に入っています。三年次、四年次にアツブデイトな話題や中国に関係のある文章を選び学生に勉強させます。学生も中国のそういったものに興味を持っていきます。イギリスに着いて間もないころ、教師が選んだそういう資料を見ましたが、とても難しく、学生が読めるのか疑問を抱きました。しかし、その教師は「崔先生、大丈夫ですよ。授業時にはしっかりと筋道を立てて説明してくれませうよ」と言いましたが、本当にそうだったので

王 それは素晴らしいですね。

崔 学生はこれらを読むことを望んでいます。当然、日本の学生とイギリスの学生では関心を持つところも違いますし、考え方も違います。しかし、日本の学生にも興味を持つものがあるはずですよ。

王 そうですね。この点は共通しています。日本の学生にも興味や要望はある。しかし、そういう制度がない。

劉 日本の大学でも、専門科目ですが、イギリスのようなやり方で行っているも

のもあります。例えば中国経済を勉強しているなら、中国語で書かれた中国経済に関する文章を学生に与え、日本語に翻訳させます。また大学には、「ゼミ」(演習)という授業があり、ここでは担当教師が学生にテーマを与えます。例えば、「中国の一人っ子政策」といったテーマを与え学生に調べさせます。学生は資料を調べた後、授業で発表し、教師は発表を聞き、評価をします。

王 しかし、それは中国語とは関係ありませんよね。

劉 ええ、直接的には関係ありません。

王 それは日本語で討論しますよね。いわゆる専門科目です。

鄭 しかし、彼らに発表をさせるというのはとてもよい方法だと思います。先ほどお話ししたように、二〇〇三年に日本で現地プログラムを行った時、最後に発表会を実施しました。中国語によるスピーチもあったのですが、ある学生のスピーチが印象に残っています。その学生は最初中国語の成績が決してよくはありませんでしたが、徐々に中国語に興味を

持ち始め、発表会の時には素晴らしい中国語のスピーチを行いました。テーマは「中国人の自転車の乗り方」というもので、中国人と日本人の自転車の乗り方の違いについて、中国人は雨の日に合羽を来て自転車に乗るので、その姿がまるで「てるてる坊主」みたいだというような内容を、ユーモアたっぷりに話してくれました。彼はこのことに本当に興味があったのです。

競争心を刺激する一方、制度で保証する、こうすべきですね。

崔 重要なのは、やらせるということです。やらせれば学生はできるのです。私のクラスには毎年日本人の学生がいます。どの国の学生であろうと、私が彼らに求めるものは同じです。一般的に、日本人、韓国人学生は話したがらず、口数も少ないと思われていますが、私のクラスの人や韓国人学生は他の国の学生と同じぐらい話します。最初は話せない場合、書いてあるものを読むことを許しますが、その後は読まないように指導します。また、他の人が読んでいないのを

見て決まりが悪くなり読まなくなったのでしよう。初めは口ごもって話していますが、少しずつ上達します。

劉 その他にも、学生を教え導いてやることも重要です。現在、愛知大学現代中国学部には、「中国語プレゼンテーション」という科目があります。レベルアップのためのクラスですが、このクラスでも討論の形式をとっています。例えば、次回話し合う内容を何にするかを、学生自身で考えます。先週、「大学生活に満足しているか」という一つのテーマを設け、大学や勉強についての感想を話し合いました。三分の二の学生が満足していて、三分の一は満足していませんでした。次の授業では「なぜ満足しているか、なぜ満足していないのか」について話し合います。このように学生が関心を持つているテーマについて議論させれば、ちゃんと議論します。関心を持っていない問題には、まず興味を持たないでしょう。ですから、学生を導いてやることも大事です。

### おわりに

劉 各大学の中国語教育の状況や、学生が中国語を学ぶ時の問題について、またどのような対策をとるべきかについていろいろなご意見をいただきました。対外漢語教育にもさまざまな方法があると思います。また制度が整って初めて実施することができるとあります。これらに関して、私たちがやらなければならぬことはたくさんあると思います。私事で恐縮ですが、愛知大学が南開大学で現地プログラムを実施してすでに十年が経ちます。この間、いろいろな問題が生じています。先ほど鄭先生がおっしゃったように、教授法などの観点から、学生が直面している問題をどのように解決していくか考える必要がありますし、さらに教材の改訂の問題や、愛知大学と南開大学のカリキュラムをどのようにしたらもっと有機的に関連づけられるのかといった問題があります。また、学生が現地プログラムを終え、日本に戻った後、南開大学で学んだものをどのようにして



強固なものとし、発展させていくかも大変重要です。さらには、学生の今後の方向性および目標をどうするかというような将来性の問題もあります。我々が抱えている問題はまだまだたくさんあると言わねばなりません。今後は、双方の交流をさらに強化し、これまで培ってきた経験を踏まえて、さきほど崔先生もおっしゃられたように、共同で新しい教授法や教材を開発するなどの、次の時代に向けた新たな挑戦が求められているのだと思います。

またこのことは、愛知大学と南開大学両校だけの問題ではなく、日中両国における中国語教育の問題でもあり、双方の経験交流と、中国語教育に関する十分な議論が必要であることを我々に示してくれていると思います。

本日は、諸先生方に、忌憚なく現在の中国語教育の問題について、またその問題解決の方法や対策についても貴重なご意見をいただきました。すぐに改善できる点もありますが、さらに検討が必要な点もたくさんあります。今後も私たち

の教育事業に関しまして貴重なご意見な  
どいただければ幸いです。どうもありが  
とうございました。

(二〇〇六年五月五日)

(テープ起こし) 王鶴、邦訳 宮田千信、

整理 砂山幸雄)